

＜経済解析室ニュース＞ 平成28年9月9日

平成28年7月の第3次産業活動指数は、前月比0.3%上昇で、指数値自体104.2と昨年平均に比べて高めで推移。対事業所サービスは堅調だが、対個人サービスが軟調な動きで推移。

平成28年7月の第3次産業活動指数は、前月比0.3%上昇と、2か月連続の前月比上昇となりました。指数値自体も、104.2と、昨年平均の103.2と比べて高い水準を維持しています。

平成28年7月の第3次産業活動指数の業種別の動きをみると、6月の英国EU離脱騒動が落ち着き、経済対策の期待などから株式取引が上昇した「金融業、保険業」、飲食料品等の日常的な買い物が回復した小売業、建設関係の盛り上がりもあって引き続き堅調な事業者向け関連サービスの上昇寄与が大きくなっていました。

サービス産業全体を対個人と対事業所に分けると、7月は、対事業所サービスも前月比0.8%上昇、対個人サービスも前月比0.1%上昇と、ともに2か月連続の前月比上昇でした。第3次産業活動指数全体への寄与では、対事業所サービスの上昇寄与が圧倒的に大きく、7月は対事業所サービスによって、サービス産業全体がけん引されていたことになります。

投資向けサービスが2か月連続上昇となっているほか、建設関連産業指数が3か月ぶりに前月比上昇、さらに非製造業依存型事業者向けサービス、つまりサービス産業の企業が需要する事業者向けサービスも2か月連続前月比上昇となるなど、企業の投資的需要、あるいはサービス産業の「サービス需要」が堅調に推移しています。いわば、企業のサービス需要が、サービス産業を活発化させ、それが更に企業のサービス需要を生み出すという好循環が生じているように見えます。

一方、対個人サービスにおいては、生活必需的サービスである「非選択的個人向けサービス」は2か月連続で上昇してはいますが、それ以外の選択性の強い「し好的個人向けサービス」は今年に入ってから水準が芳しくない上に、6月前月比上昇から7月は前月比低下に戻ってしまい、活動レベルの上昇に持続力がありません。前年水準を下回る月も多く、7月は前年水準プラスとは言え、曜日要因を考慮すると昨年からのプラス幅は物足りません。

小売業、「飲食店、飲食サービス業」、観光関連産業など、部分的に7月が良い結果となっている系列もあるのですが、横の広がりや時間的な持続性が見られません。

こういった状況を踏まえ、平成28年7月の第3次産業(サービス産業)の基調判断については、「一進一退」のまま据え置きとしたいと思います。

7月に鉱工業生産は、前月比横ばいではありますが、出荷増によって在庫調整を進展させました。国内の設備投資向けとなる「輸送機械工業を除く資本財の国内向け出荷」は引き続き堅調、耐久消費財の出荷もプラスで、機械器具小売業や自動車小売業の指数も前月比プラスでした。サービス産業においても、事業者向けサービスは堅調な推移で、第3次産業活動指数は2か月連続の前月比プラスです。ただ、一部に動きは見えるものの、引き続き個人のサービス需要の振るわなさが払拭されていないというのも事実であり、この重石が解消されることを強く期待したいところです。

◎結果概要のページ

http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/sanzi/html/b2010_201607j.html

◎参考図表集

<http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/sanzi/result/reference/slide/result-sanzi-sanko-201607.html>

◎『就職にも使える！ 第3次産業活動指数』（マンガ）

http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/slide/20160405ita_manga2016.html

○問合せ先

経済産業省 大臣官房 調査統計グループ 経済解析室

Tel：03-3501-1511（代表）（内線2854）、03-3501-1644（直通）

FAX：03-3501-7775

E-mail：qqcebc@meti.go.jp